



①「原爆被害が風化する」となく正しく後世に伝えられることを祈念いたします。中原会長の式辞。②司会進行を務めた大竹高校の山本りかさん（1年左）と高橋ひなたさん（2年右）。

⑨演奏を務めた大竹中吹奏楽部。⑩フルート担当の部長の伊勢岡葵さん（3年）は「大切な機会に演奏でき、平和を守っていかなければいけないと改めて思いました」。⑪水桶にくまれた水をささげます。⑫各学校の代表が折り鶴を献納。⑬恒久平和こそが死者への供養。手を合わせる参列者が続きます。⑭深々とこうべを垂れて祈る姿が印象的。

8月6日

鎮魂の日の降りやまぬ蟬時雨

「シャンシャンシャン…」と会場に降り注ぐセミの声。被爆77年を迎えた朝、総合市民会館『叫魂』碑の前で『大竹ヒロシマの日』として40回目となる『原爆死没者追悼・平和祈念式典』が厳かに執り行われました。

式典は、参列者の平和の歌の合唱で幕を開け、灼熱地獄の中、水を求めてさまよった被爆者にささげる献水、この1年に亡くなられた40柱の被爆者の名前が書き加えられた死没者名簿の奉納、市原爆被爆者協議会の中原悦司会長の式辞と続きます。原爆投下時刻の8時15分を迎え響き渡るサイレン。会場に鎮魂の時が流れます。

玖波小、小方中、大竹高校の児童・生徒による『平和への誓い』の発表があり、橋本萌さん（高2）は、ロシアのウクライナ侵攻に触れ、「戦争をなくすためにできることは、原爆による悲劇を忘れず、次の世代に伝えること」と訴えました。コロナ禍で3年ぶりとなる大竹中吹奏楽部の演奏の中、児童・生徒たちの折り鶴が、『叫魂』碑に献納されました。

参列者に手渡された白い菊の花一輪。献花の列が続き式典は幕を閉じます。

③『平和への誓い』を発表した森川絢世くん（小方中3年）は「平和について考える機会になりました」との感想。④生徒たちが祈りを込めた折り鶴。⑤橋本萌さん（大竹高2年）は「過去の継承が戦争を止める力」と訴えます。⑥校庭にある被爆死した父のことを詠んだ句碑から語り継ぐことの大切さを訴えた森岡優星くん（玖波小6年）。

昭和20年8月6日、大竹市域から約1000人が建物疎開の動員として、120人を超す学徒が勤労働員などで広島市内に向かい、多数の犠牲者を出しました。現在、原爆死没者名簿には入市被爆した人を含め、2449柱の名前が刻まれています。



⑦⑧8時15分、鎮魂と平和を願い黙とう。